

12 検査部

連絡先：075-751-3502（部長室）
075-751-3480（検査部）

診療部の特徴

- 1) 高度先進医療のサポート
 - ・検査の迅速報告と業務の効率化、省力化、低コスト化
- 2) 感染症診療の情報源
 - ・感染制御部との密な連携
- 3) 生体検査の充実
 - ・循環器関連検査の検査部への集約
- 4) 遺伝子細胞検査
 - ・移植医療への貢献



<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~kensa/>

献している。

本年度6月から検査部ホームページをオープンさせ、院内にて必要とされる臨床検査情報をタイムリーに知らせる仕組みとして運用を開始した。本年度末には3年ぶりに検査部マニュアルの改訂を行ったが、紙面とホームページという異なる媒体を用いて診療に有用な情報提供を充実させている。

2) 検体検査部門

システム部門は、検査業務の効率化、迅速化、省力化、低コスト化を目的として検体検査情報システム（MOLIS）と自動分析装置を接続した搬送ラインを中心に構築されている。高機能な検査進捗管理機能を活かし、検査結果の報告を迅速に行い、外来至急検査は採血から報告まで血液検査で30分、化学系検査で1時間前後、腫瘍マーカーや内分泌系検査の大部分を即日報告している。このため、外来診察前検査や検査後再診察が可能となっている。

外来中央採血室の採血患者数は平成17年度に比べて10.9%増加した。患者の採血待ち時間が増加してきたために、採血担当者を部内の調整により9名体制の採血業務態勢にて対応している。平成15年度4名であった採血要員は採血ニーズに応じて着実な対応を続けており、増加する外来採血患者の採血と採血待ち時間の短縮に貢献している。しかしながら、今後さらなる採血患者の増加が見込まれており、採血場所の確保と旧式化した採血管システム（平成7年整備）の更新が課題となっている。

沿革と業務体制

臨床検査業務を行う検査部は中央診療施設の主要部門として、当大学病院が果たす地域医療機関としての役割、最先端高度医療の推進および教育機関としての責務に貢献できる体制を整えている。診療、研修および研究の支援部門として迅速で質の高い臨床検査を診療側へ提供している。

業務内容の特徴と実績

1) 稼働状況

本年度の全検査件数は約605万件であり、平成17年度比で9.8%増加した。この結果、毎月50万件以上の検査件数に達しているが、検査件数の増加はこれまで実現してきた検査部のシステム化、迅速化、経費の削減および人員の再配置により増員することなく業務対応を行っている。加えて、外来棟中央採血室に1名の採血要員を増やして外来患者の採血待ち時間短縮に貢献し、外来化学療法部における採血管準備作業に1名の要員を派遣して診療および患者サービスの改善に貢



採血時の疼痛患者対応を迅速的確に行うために神経内科や安全管理室にご協力いただき採血疼痛マニュアルを作成した。各部と連携した対応が円滑化して患者サービス改善に貢献している。

電子カルテへの対応に積極的な取り組みを継続している。本年はHIV抗体検査親展報告の電子カルテ対応などきめ細かい対応を行っている。

新規院内検査項目としてHCVコア抗原検査を開始した。従来と比較して報告時間が3日から2時間に短縮され、輸血関連検査や針刺し対応などの緊急対応に有用性を発揮している。

3) 生理機能検査部門

生理機能検査部門は、種々の診断機器を用いて臨床診断に必要な情報を患者から直接検査する部門であり、主な検査項目としては、脳波、筋電図、誘発電位、神経伝導速度測定など脳・神経・筋系の検査を行っている。また呼吸機能、心電図、ホルター心電図、トレッドミル運動負荷心電図、心音・心機図、心臓超音波・血管超音波など呼吸・循環器系の検査を行っており、腹部大血管や腎動脈、四肢の動脈および静脈の評価にも取り組んでいる。また消化器内科と連携し、尿素呼吸試験も担当している。

当部門の特徴としては、脳死判定を含めた病棟への出張脳波検査（ABRを含む）を実施している他、心臓・血管超音波検査の出張検査にも循環器内科と協力の上対応している。腹部超音波検査などの心臓・血管以外の超音波検査についても導入にむけ現在検討中である。

また、院内外を問わず、超音波検査の見学・研修も



心臓超音波検査画像

受け入れており、好評を得ている。

長年の懸案であった超音波検査センター設置の一部が認められた。これまで2年間にわたるセンター設置の有用性調査と関係部門との連携によって準備を行ってきたことを基盤として、診療利便性の向上と超音波検査装置集約による経費削減に寄与する方針である。各科と連携のもとで心臓や血管超音波検査を始めとして腹部、頸部、甲状腺あるいは乳腺といった超音波検査を集中的に実施できるしくみを構築する必要があるが、臨床検査技師の消化器内科検査室への派遣および研修を行いつつ、院内全体の超音波検査ニーズに対応するものである。

高度先進医療等への貢献

当部はチーム医療へ積極的に取り組んでいる。本年度は入院患者の糖尿病教室における検査指導、NSTへの参加および病棟での採痰指導を開始して患者・診療側双方から好評を得ている。また、採血をテーマとした院内講演会を実施するなど、診療科・各部門と連携した臨床検査サービスの提供を続けている。

検査部は中央診療施設として各診療科における先進的医療を支える立場にあるが、検査項目によってはそれ自体が先進的内容であるものもある。EBウイルスやサイトメガロウイルスの定量検査は、移植医療において欠かせないものとなっている。探索医療センター等のプロジェクトへの参加など、今後更に感染症・遺伝子検査領域での先進的取り組みが計画されている。

超音波検査センターへの積極的貢献など、生理機能検査部門においても種々の高度先進医療を支える検査データを提供している。

平成18年度検査部検査実施件数

(件)

検査項目	外来	入院	合計
一般検査	104,860	39,971	144,831
血液学的検査	397,002	358,269	755,271
生化学的検査	2,370,146	2,005,545	4,375,691
内分泌学的検査	105,705	38,851	144,556
免疫学的検査	197,394	145,513	342,907
微生物学的検査	12,854	65,677	78,531
病理学的検査	15,024	13,747	28,771
その他の検体検査	4,254	3,388	7,642
検体検査 小計	3,207,239	2,670,961	5,878,200
(時間外・緊急検査) (再掲)	(46,348)	(271,186)	(317,534)
循環器機能検査	14,667	7,608	22,275
脳・神経機能検査	2,211	1,328	3,539
呼吸機能検査	8,379	5,663	14,042
超音波検査	6,768	5,292	12,060
その他の生理検査	183	5	188
生理機能 小計	32,208	19,896	52,104
採血・採液等	126,128		126,128
合計	3,365,575	2,690,857	6,056,432